

豊庄だより



第 541 号 2018 年 11 月 26 日

ノンフィクション作家の山崎朋子さんがなくなりました。女性史の研究者であり、小説『サンダカン八番娼館』は、映画（栗原小巻さん主演）にもなりましたので、ご存知の方も多いのではと思います。新聞（11月16日付）で訃報のニュースを読んでいて気づいたのですが、夫で児童文化研究者の上笙一郎（かみしょういちろう）さんと『日本の幼稚園』（ちくま学芸文庫）という本を書いています（この本は1965年に理論社から出されたのですが、廃版となり現在は「ちくま学芸文庫」でのみ読むことができます）。

福岡市早良区南庄2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達



私とこの本との出会いは、10年位前、知人から「西尾君、保育園の仕事をするようになったと聞いたけど、この本、あげるよ。いい本だから読んでみて・・・」と言われ、いただいたものでした。その後、この本は私の家の本棚でずっと眠っていました。今回、山崎さんの訃報により、「たしか、この本持っていたよなあ〜」と探し当て、ページをめくることにしました。

本の題名は『日本の幼稚園』ですが、明治9（1876）年に創設された東京女子師範学校（現在のお茶の水女子大学）の附属幼稚園から始まり、明治、大正、昭和における幼児教育の歴史が書かれています。一般の教育の歴史についてはこれまで学習を積んできていましたが、幼児教育の部分については初めて接することがほとんどでした。その中に、つい最近完成した映画

の題材となった保育園が登場しているのに気づきました。その施設の名は、戸越（とごし）保育所。昭和14（1939）年に、当時の東京都荏原（えばら）区に作られた保育所です。保育定員は70人、女工・内職・屑屋・よいと巻け・豆腐屋・床屋・飲み屋などといった仕事を持っている母親の子どもを預かり、生きた社会に生活している子どもたちに社会性を養い、それと同時にその両親をも文化的・社会的に目覚めさせて行くような保育を目指しました。世の中が満州事変後、暗い時代を迎えていく中で、理想を求めて作られた保育所でした。映画は、この戸越保育所が太平洋戦争末期、空襲から逃れるため郊外（埼玉県）に疎開する話です。タイトルは、「あの日のオルガン」。三谷幸喜映画の常連、戸田恵梨香さんが主演しています。来年の2月22日から一般の映画館で公開されますが、それに先立ち、完成記念招待試写会が、中央市民センターで行われます。興味のある方は、事務室までどうぞ。※12月8日（土）13:30開場、14:00上映開始、16時10分終了予定です。当日は監督の平松恵美子さんの舞台挨拶もあります。

